

繪本豊臣勲功記

五編

七





繪本豊臣勲功記五編卷之七

目錄

明智主從通憤怒逐叛逆

屬 宍 愛 連 秋

光秀不害宇野保却害之

屬 龜 山 調 軍

繪本豊臣勲功記五編卷之七

明智光秀謀叛園本能寺

属 諸士戦死

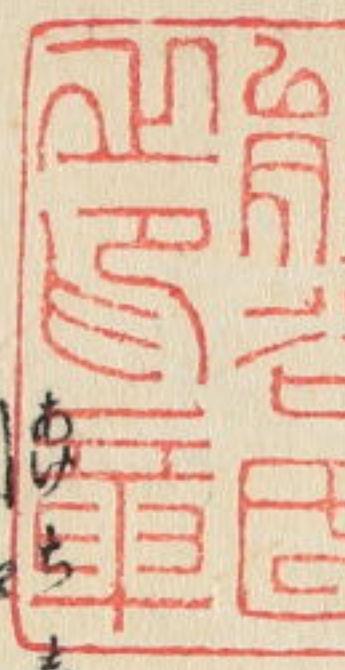
右大臣所生害蘭丸戦死

属 安田孫功



繪本豊臣勲功記五編卷之七

櫻澤堂山 編輯



明智主従通憤怒遂叛逆属宮愛連秋

君との臣と見ること。糞土の如くする。响の音亦君を冠讐の如くもせん。先言  
頗鼻悪むるかな。明智日向守光秀。既に主君の瞋を彼り。寮夜司の職を逆  
除られたるのそむく。蘭丸等りつ。擲辱せしむ。心中湧か懐く。怒ると  
いとも。危しむ。出さ。帰結し。けり。光秀が。臣家。明智。馬。今。同。源。在。續。つ。同。十  
郎。左。衛。門。妻。本。主。計。願。四。王。天。但。馬。守。並。河。梯。郡。分。村。と。和。泉。守。奥。田。左。衛。門。  
尉。三。宅。左。衛。門。清。海。尾。左。衛。門。清。進。士。作。左。衛。門。海。左。衛。門。の。心。を。嘆。察。し。怒。を。含。み。東  
けり。中。原。公。源。家。の。末。孫。織。田。家。譜。代。の。臣。家。ふ。も。あ。ら。び。然。る。不。遠  
遭。か。と。孫。く。非。道。の。所。作。彼。令。織。田。家。と。離。る。と。も。不。可。さ。る。あ。ら。び。す。く。急





に七、おりの外なる君命は斯く難有しと思ふりのう。我を忘せて突と俯伏し。
心中の怒氣もたちまち頓折を後述は頼朝合せ元來義直の光秀にれば
従来君を恨まわらせおやせんたやと思ひし罪をこの中に愧謝するを思ひ
感して落涙するを。使節の青木密と見遣すの款びハ終るまで分が、青木密や
日向守殿の友一條の君命あり。是下れ存亡極まりぬ。獨と西流冷しもう。獨と
の雲石二國ハ猶故地ありて翌日にハ所を在任をを俸祿をぬ。獨と領地の換
りして龜山坂本の二ヶ城を呈返られよ。の余ぞと略て落び驚懼する場て
長城ハ滿面の怒氣頭をく見えたる後元秀志をく目注して其の色の面
に出さば楊俊より奉じて本典を帰し。諸勇士大に勇り俺們的持重
たる如く。龜山坂本の支城をりて出雲石見もゆる換人と云。言籍に絶たる料
埋り。雲石二國ハ款地ししていす。主君の所より客らび龜山坂本をりあ

けらまはる君の所身を置さ地也。是信長が我君へ自殺せしむる強敵あり。
坐かから流死しあらんより快くおがし起り。と諱護し之を初めたる光秀
要時點指と云。又て在るに。突と起奉て四方を視流し。威威を整して長
夜に向ひ。汝所他言するおとくれ。先の月甲州ゆく。信長をけり。冬を揚我
頭を打し。かども。長家の道を思ふことを。教次と云。私辱を忍び。憤を養ふ。
が。浩る雅題を蒙るるう。ハ。明智の滅亡今日唯今時至る。おそ。是。非。ひ。今。月
下。游。ハ。信。長。父。子。上。洛。あり。と。聆。も。時。令。は。其。响。報。い。ま。あ。せ。ん。先。龜。山。一。棒
起。て。彼。城。を。殘。せ。し。股。肱。の。兵。卒。も。言。彈。し。其。中。に。針。儀。を。結。ん。搦
て。恐。密。た。ん。や。と。後。事。を。う。く。謀。合。せ。意。靜。に。去。ち。登。城。し。中。國。加。勢。出
陣。せ。ん。と。て。信。長。公。ハ。瞠。を。乞。其。去。の。城。を。退。出。する。が。山。の。藤。原。は。其。時。既。と。兩
顧。て。城。を。仰。瞻。噫。今。日。す。て。七。年。丙。月。君。は。城。を。在。と。こ。り。人。と。い。とも。尊。く

視よりしも今こそ果は此通施たまひ公性のふとあり且取見察しつらんあり  
あり。呼根りの妻土城也と腰を披りし紙業把出布時に一首此秋を題く

公あつぬ人を何ともいふつて身をも惜まば忠成をかしまば

道急つて主使備ふ坂本の城に之歸りぬ。此時最蘭丸八信長公の亦前  
一歩密に言状したてまつる。只今光秀が態をいへる小謀叛をこおやえし臣

清輝を蒙らる目然し光秀を斬て弄まうらんと思投て見えけるに也。

其ハ赤いつるも忍をと訊ねるも。蘭丸抱く。此今明智光秀を登城せし

顔色といひ。今朝飯時を疑ひしはに哺ら飯を嚙む。おみ中し沈吟し在し

りしが持たる著を取落したまふ。要時ハ覺えん忙急なり斯まで心伏果

はさるハ正しく天下の一大事を想起のれいららん。光秀從來君を恨ま

らざるをと憂へしれを。沖斷すまは登るべし。諫言したる暇カハ

大濠智勇の乱るなり。然やとも明智光秀ハ坂本の城に歸着し。城代

明智十平次 光秀のあつびに三宅武部。奥田宮内山本村馬守。諏訪飛

弾守。秋篠内後介。伊勢與之介。村越三十郎。飯を呼集め。密に女玉の次

女を蒞譚。既し謀叛と決むたが。各の心底いんとの間に是亦ハ法違も

金借し。信長を怨むと甚どく。なれば。奉て叛逆を勧めたるも。宛電し不

和を添ふるが像く。坊々逆意に凝固すり。其公さこそ渾り知事。其時

光秀指揮したる中。明智左馬助。岡治右衛門。田五左。但馬守。並河。押

飯。丹波の武士を侍多く。急だ鹿山の城に到り。意本山城も。深波も。并々清

波。密に遠意を重所せ。其餘の密ハ。出雲石見。北。津。浦。地。へ。赴く。處。さ。し。

披露して。晦日ぐりに悉く。鹿山城へ軍勢を集め。さし。指揮を受。的。密

並河。田五。天。飯。五。月。廿。四。日。の。三。更。を。り。に。丹。波。の。國。へ。趣。ひ。し。り。光。秀。ハ。廿。七。日。



豊臣記五編卷之六



豊臣記五編卷之六



愛宕山  
の南へ  
過る  
候儀  
の釋迦堂  
の南へ  
到り  
此  
の緒  
士  
の若  
て  
い  
ふ  
や  
我  
の  
祈  
り  
の  
由  
り  
あり

愛宕山  
の南へ  
過る  
候儀  
の釋迦堂  
の南へ  
到り  
此  
の緒  
士  
の若  
て  
い  
ふ  
や  
我  
の  
祈  
り  
の  
由  
り  
あり

三子餘騎を引率して坂本の城をうち獲。白鳥載せし都へ入らば西に系  
を南へ過る。候儀の釋迦堂の南へ到り。此の緒士も若ていふや。我の祈  
り願ひて。愛宕山へ賽し。今宵は通夜して明朝丹波の國へ赴く。當り  
バ汝候はちまより途を急げ。疾急山へ奉表をよ。諸士も別きて日向守。股  
肱の武士八九人を伴ひて。愛宕山へ攀崎り。神前も額法を丹精を凝して屢  
く祈念し。備若大望成就するに候。才一を授け。神國を扨り。何の如く。一番  
かまを。光秀も。秋び。賤之中國。勢行。此より。通夜する。せんと。まじ  
狗。西の房威徳院。行祐。分。終。又。旅。宿。せ。され。日。未。曙。り。も。道。な。れ。る。百。韻。流。連  
秋。を。僅。ふ。され。り。亦。由。遠。院。司。行。祐。へ。原。來。連。秋。の。達。人。な。れ。ば。遠。道。小。堪  
能。る。經。巴。法。橋。昌。巴。法。橋。心。前。法。師。兼。如。法。師。大。后。院。育。深。候。此。小。候。と  
て。肥。後。一。々。其。費。向。ふ。ハ。

愛宕山  
の南へ  
過る  
候儀  
の釋迦堂  
の南へ  
到り  
此  
の緒  
士  
の若  
て  
い  
ふ  
や  
我  
の  
祈  
り  
の  
由  
り  
あり

阿多今何れが志に。又月夜  
水上はさる。庭に。お。川。系  
花。落。る。池。に。を。ぐ。れ。と。堰。と。あ。て  
風。を。夜。成。た。れ。お。く。お。暮  
美。も。あ。り。鐘。の。音。や。次。ぬ。ん  
う。と。く。神。も。何。り。あ。け。れ。若  
う。ら。栞。も。あ。り。あ。る。も。此。栞。と。て  
吹。な。れ。ふ。り。登。高。の。松。虫  
秋。を。た。げ。藤。さ。方。に。お。れ。り  
尾。上。の。朝。氣。夕。ぐ。れ。の。光  
光。秀  
行。祐  
昌。巴  
肯。源  
心。前  
兼。如  
行。澄  
行。祐  
光。秀

是の面十句あり。末の句は此小候。兼中光秀の句十六韻あり。若環の

聖臣七五編卷之二

くみく

色も香も研をそむむる花下

心前

くみくいかな長閑なるに

光慶

執筆の光秀の親臣東六郎を清河澄 東下野吉津係七代の後胤ふして千景を

を揚る後て東下野吉津と号し野村の秋人なり今地下に秋道の傳ふる事此より始るは吉津を種玉庵

宗徳といふは同いふ東六郎を東野といふ非なり亦一宗は清河澄を法胤といひ法胤を澄なりは秋人

澄とす見非なり あり 亦名張の秋名を光慶と記せしは光秀がむかひをさぶるも秋名と

新せしあり然るに子望女八日再権現へ来詣ふし黄金珍器を多く寄附

して且吟友のりそれくふ贈財を分與へ河色の目らましく再會せんと祥謝

を若丹波に到るぬ 幾内記時ハ今とある事むに長閑なる所とありハ光秀本姓王岐の流れる苗

るを秋後とて秋のゆ 字は阿耨のむかへて由中ハ今分れ秋意と軒天下を平治一四海四方時景なる

光秀不害宇野練却害之属龜山調軍

晋北桓温枕を撫して嘆としていそく 光一 男子芳を百世に流るると継ぐ人ハ亦貞を

萬年子遺さしと六分統教は日向ちが志不無以然かふハ明智光秀ハ其

日丹州龜山の嶽不蕭しなるが子息十景清光慶遠頃瘡疾をうづらひ熱氣

瘡が如くして瘡言ふといひ人事を覺えハ光秀殊に不便おありハ隠岐に

移し是清惟恒命じて醫療をかさしめ一様かづら病をなす 光秀ハ之女曰

鐵田佐仍の二子七景清澄の室なり其次ハ初川者孝の子と一景忠興の室なり 後子丹波素

基次ハ十景清光慶なり其次ハ自然なり其次ハ九景の女子其次ハ素凡とよびて八景なり 山中保津日野村

因那外畑の住人宇野豊後守久明といふ者あり 性質殊に

廉直にして仁義の外子通をゆらざる高きなりしが光秀龜山に歸るの叙

外畑の使者を走らせ對面したる言証を然るハ豊後守を死に候なり腕に

腫痛放蕩して痛若なるに堪えられども乃そ人ハ稱ふまゝに伴夫ららふ

處三人を跟従へい七がうく行着たれば光秀執ひ迎請宴を設けて酔く

款待し、次子腕の腫を慰撫し、つて后近士を遠ざけ身を修せし。低く我  
と言渡るなり。今我命旦夕に過まり、是下られ城を助るや、いかれどと  
同慮を以て、後を略せしむ。威儀を整ひ、今當國の城を治め、天下に名將と  
るを得ざる事、のあまざる、命を捨る道や何る。察するところ、悲しくは是  
徳及の政企す、まじき人とな志を當まじく日向守。恨め始終を治禪に  
ぞ。宇野懸くと、ゆるし其聲懐の理を、傾地へ是、是、揚、殿あり。夫、ま、ま、懸  
する夏もあり。示霖、る秋も、何、人、る者、の愛惜。平生、此、来、去、事、と、懐  
さる人へ、あ、る、る、る、唯、揚、を、る、昔、の、愛、と、思、ひ、あ、る、る、秋、亮、も、信、長、公、を、恨  
ま、る、る、日向、殿、の、を、夫、自、己、が、一、個、の、勇、智、を、り、て、遠、國、等、を、平、治、し、と、思、ひ、ま  
た、れ、ど、も、其、い、か、わ、い、る、失、慮、を、り。夫、長、此、道、る、事、其、身、を、殺、し、て、君、に、仕、ふ  
思、ふ、こと、これ、を、賞、する、小、國、郡、を、も、功、又、酬、る、力、を、得、一、勞、成、盡、し、と、其

報を望まば、功を呈し、事を積む。其責を求めば、その故人も、彌り、努む。不  
も、又、成、傾、け、来、世、に、惡、名、を、残、し、む、を、恒、の、英、智、に、似、せ、ぬ、所、貴、謀  
こと、其身、た、れ、太、守、と、君、と、の、断、金、の、文、を、と、り、も、不、愛、の、道、に、誘、ひ、さ  
と、憚、色、を、く、俦、め、ら、る、に、ど、之、光、秀、も、其、理、を、服、し、繪、以、掩、理、の、俦、を、り。得  
と、深、思、し、ま、り、と、さ、と、と、噫、て、其、後、の、別、を、う、り。不、得、の、光、秀、宇、野、を、脱、れ  
て、西、に、懸、り、油、の、如、く、汗、を、流、し、大、息、嗑、嗑、と、在、る、と、さ、ら、へ、明、智、孫、十、郎  
光、景、よ、山、本、お、は、し、由、傍、地、小、構、一、茶、室、より、小、炮、を、提、け、窺、出、光、秀、が、前、に  
投、身、我、今、宇、野、が、有、名、の、返、答、い、り、あ、あ、る、と、立、聆、せ、り、恐、る、ら、ず、諒、懐、の  
伺、ひ、一、個、に、も、せ、り、密、事、を、察、して、疑、を、さ、る、其、未、だ、歸、を、せ、り、尊、慮、の  
量、意、決、り、と、言、を、代、光、秀、亮、尔、と、答、を、さ、り、あ、そ、を、知、り、憶、ら、れ、た、是、蹟、迄  
竟、て、敵、を、殺、す、の、伺、ひ、懸、り、先、と、て、腹、長、曰、人、伴、ひ、修、る、通、ひ、懸、る、回、曝、徑



宇野豊後守  
 光秀の謀叛を  
 察破して  
 諫むる詞  
 裂竹の像

圖を厭たて一題に走る諸の弓と強きよりも疾く趨着て聲をも吸ひ一  
 撃にちさんとせしを果も若士鄙怯の傲もひじつと。まわらぬ怒りて行過  
 る成光速なりたるを後ちこれ光秀が我とて殺せりんとて悟り。  
 喃音多し其許に誰あわると呼向られ發せりか當言然ぬるを呼  
 せり六开も又執をとを倚せ宇野身構ひ。同むともひらり知るを唯光  
 秀が謀叛に加擔せびとの密謀に唯口より。他へ漏れやせんかと怖きて殺  
 刺に来るものちらん。唯も武門の生儀託す。非命ふ死をさす不極ひ。然と  
 て汝も主命奉る。怯足勞せし功に。勅割させんと謂もそをば。雙肩脱ぐ  
 脱刺斬まは孫十郎の嗟嘆しつ。首極落して主歸り。を後ちが最終の始終  
 を告る。我聆て日向守落涙してと嘆じたる。其の周さ。織田右大臣信長公の同月廿  
 九日とりて。廣南丸同房丸同力丸湯淺甚助。金表我入致候と三百餘人を俱

奉りし。上洛ありと曰條西の洞院。本能寺元四條坊門西の洞院小在り。本能寺に  
 所旅館あり。中國の羽柴へ所加勢を諸國の武士へ所指揮し。備中  
 將信忠師ハ。海軍新六郎。毛利新助。菅原九右衛門。福富兼右衛門。圓平八郎  
 倂。六百餘人を率從し。二条の城に入せり。信長公の所末子。源三郎。信長公の  
 回又十弟。同勅七倂と備子。之子餘務に。妙覺寺に寄宿せり。諸將の奉  
 向と相等たる。所慮りもや信長公天下の武門に。將とて。子行此重た。所  
 かめり。僅三百餘人に。寺院小狭痛く。多し。治世といふとも危し。不始て我  
 の時ふ。おのこや。是福蕭牆の也。不。起る。汝知。あさる。七。疎懸。り。終  
 始なり。然る。不曉。是。六月。未の朔日。光秀。諸士。を。集む。門。の。若。と。連。杯  
 て。留。ハ。明智。左馬。之。也。光。俊。同。十。弟。左。衛。門。之。親。光。秀。が。同。治。石。坊。門。光。忠。妻。本。主  
 計。心。兼。賢。光。秀。が。妻。二。宅。若。左。衛。門。朝。源。尾。左。衛。門。清。隆。朝。骨。柄。の。よ。く。似。る。と。い。ふ

明和熾を史忠益明智孫十希光系毎夜内巻分利  
 其後光秀に隠入 曰王天但馬守政孝 福知山の  
 丹羽其共たを領以 村上和泉守行重並川橋新介秀國  
 奥田宮内一武池田敏那輝秀二枝之方清門兼顯安田地名清國次比田常刀  
 則家進士六希希夫夫則尾石與三右氏松田右希左清門政親は東田源藩つ  
 勝定海を殺して江戸丹波國の清和達列を懸して座席に著 駒小光秀亮  
 以嚮以乃昂ったれ小各達が一命をりて揚る。あうく子人バ速は首を刎て愉  
 快謀殺の根を断ると言費する小列座の個々息遣らせし遠眺明  
 智彦馬助席の上座ふありけるが廳中を依と視流して各こいまご費言さ  
 事六。服不脱の知事ぞとせれど。咱苟も明智氏の血脈は流るるなり。刺や君を  
 り殺しなり。若悪とともは扶助ざる縁故を。左馬助小おのくハ喉を命に從  
 ふなりと念着て言費せられを其餘とくも多年の恩顧を我に報たる個々

されば是口同般に至命を遠背をありと斜たりたる光秀大不執候か  
 座に置たる箇の中より。年王を取也光俊ぞとあまは讀しわ列座強くは  
 姓名を書記し年王に傑て譽信を。我盟を固く倍びられ光秀若若び形様  
 を軌座中央に座して書したる中。咱朝倉より鐵田に仕官し今に到りて  
 十有七年 永福土年より天 長臣の列に加ふる者を非道の抄擲せられし  
 西國下向れ加勢たる命を下し龜山坂下の居城を奪除咱は自滅せせん  
 ことをおれ不依て休とて得ば大事を憶起しなりと怒りる色を面相に  
 顯し。怒氣殺然と言費するに列座備ねも懐海を。實小津道理此  
 と小おそとる費すと初むる小ぞ隠波惟恒ふ八百餘人を流して嫡子光慶  
 せ着病なぐ。龜山の城小留め置中國費向の細兵とと披露し。同日由此  
 上刻。能生烟 城下にあり今ハ 以推し七水色以格梗の枝を印たる大旗を賴門

多く雙走はさし白紙の紙子標の馬標を樹軍兵せりて茶後中を三隊ふ  
 あたひ領伍くれ一隊ハ明智左馬助光俊を大将とし四里天領る也村と和  
 泉守妻本自利領之宅武郡御。こふ七百餘騎。本道を経て大寺の坂を  
 色り。程の里を越て山一隊の大将ハ明智左馬助光俊とす。右田村と和  
 並河揮於分。伊勢与三郎。松田右衛門左衛門の四子餘人と是より村よ  
 り唐槌戦しく。松尾山田村を北通り。本陣をく。連合さんとも。諸徳大將明  
 智日向守光秀ハ同苗十郎左衛門。意本山城守同友之。逆瀬坊花弾也。女  
 内務今。奥田宮内。之枝之方。門候之子餘人と。率從ハ後陣を行列て。因の  
 下刻に保津の驛より山中越して水尾よ出る。是ハ光秀豫てより。密に水  
 尾設けし。尾竹ハ路を法じて。衣笠山の麓を地蔵院よ。若陣せり。時に  
 明智少将軍勢。去の乃軍をむとく。新王。中國貴向をりり。のあを。搦

一私を山ハ  
 大内山と平  
 野の社あり  
 あり

磨路へこそ趣く。なまに。目今上流く。夕六。いかる。あゑと。訊録を。其際の大  
 將偽て。諸軍よ。若る。信長公の命せふより。諸程ハ不順なれども。遠軍の調  
 兵を。京都小おの。所。覽。た。ま。ひ。は。ふ。ふ。都へ。入。せ。ら。る。り。と。言  
 へり。不。を。諸軍勢。実。然。こ。も。あ。り。ぬ。と。何。か。く。終。夜。人。馬。の。行。方。を  
 急。が。せ。法。を。京都。を。く。を。北。上。り。ぬ。

明智光秀謀叛圍本能寺屠諸士戦死

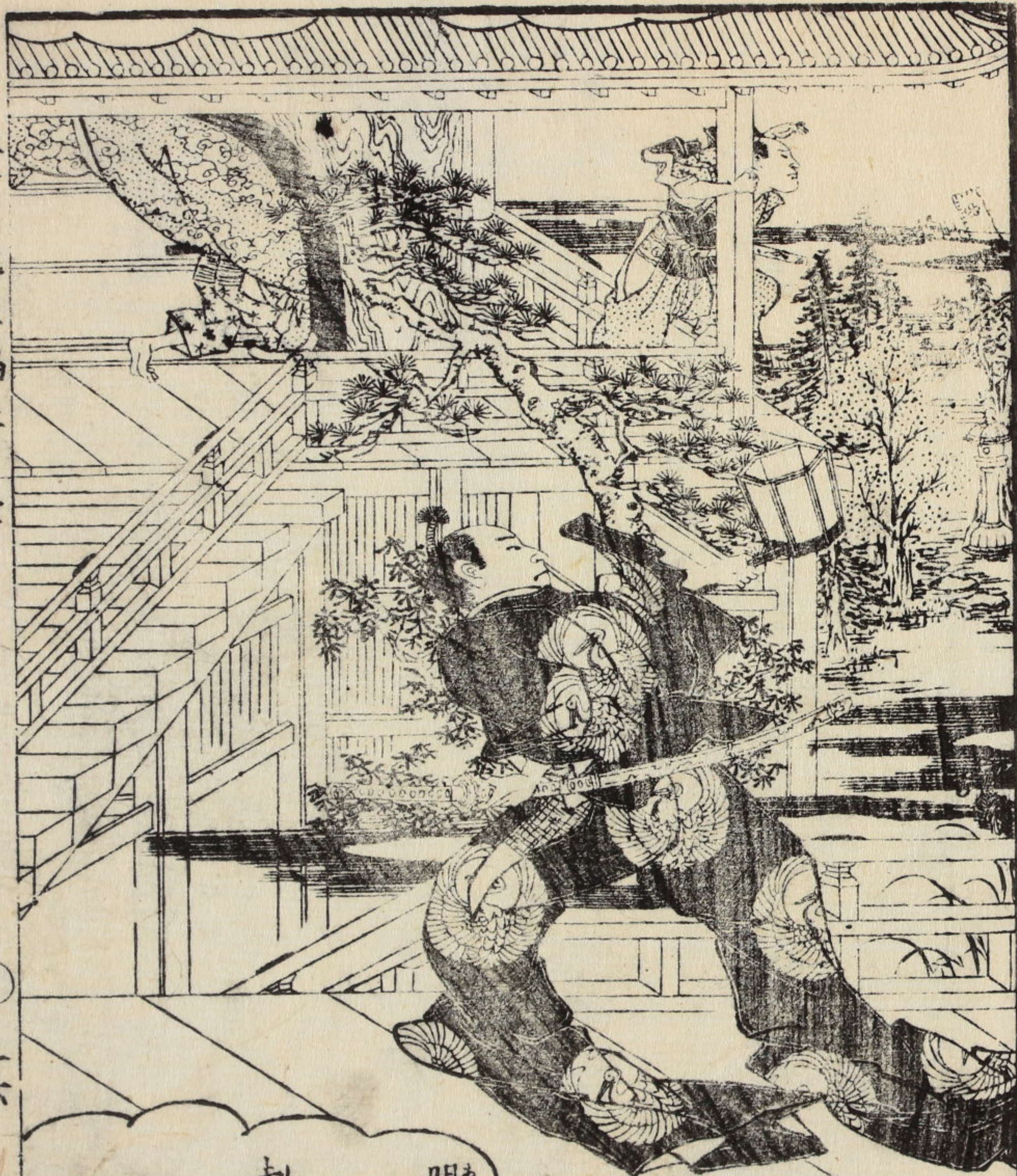
能仁滅に際して。戒て。宣。く。瞋。恚。の。害。ハ。諸。の。若。法。を。破。中。と。至。要。り。つ。と。も。是。を  
 る。か。君。成。失。ふ。も。瞋。に。起。里。法。を。忘。る。も。志。小。犯。る。然。バ。明。智。日。向。守。光。秀。ハ。京  
 都。郊。外。の。地。お。り。小。栗。村。人。馬。に。息。を。休。せ。兵。糧。を。喫。も。也。衣。具。を。織。せ。せ。又  
 一。の。か。り。諸。隊。に。指。揮。せ。秋。ハ。二。條。本。能。寺。と。二。条。の。城。に。あり。各。懸。く。攻  
 撃。せ。努。く。躊。躇。さ。ず。と。最。最。に。觸。る。程。小。此。時。始。て。總。軍。勢。謀。叛。の。出。軍。を





之知也。借其萌あるが枝小狭く葉の更に多くて。最個に之を起す。翌れば  
 六月二日ある。まご條の夫のたるる。宮の中央におわく。此朝頼明智が徳勝一  
 万七百有餘人。之隊を分けて。洛中に入る。本願寺に向ふ。明智左馬  
 助光俊三千七百餘人。二条の城へ。洛を攻め。光忠四千餘人を二隊に分て。妙覚  
 寺をも圍ませたり。大將明智光秀八三條堀川の南に方。三千餘人を八列小  
 して本陣を安布。諸司代村井長つる。堀川の邸を緩圍にせし。其外大津  
 山科宇治伏見。唐橋八瀬鞍馬。香ヶ峯。かんの通達一勢を領て。五百三  
 百餘人の埋伏をせし。然して軍強く本願寺を攻撃し。しる事。破竹の像  
 一。然れども右大臣信長公へ。曰條本願寺小所。在陣させし。れ。嫡子中將信  
 忠卿のくび。源三希務長卿。六朝の所禮して。本願寺に投せられ。所父  
 子のあり。最賤しく所宴せし。く。盛興して。甲夜のあり。まを献酬され。別

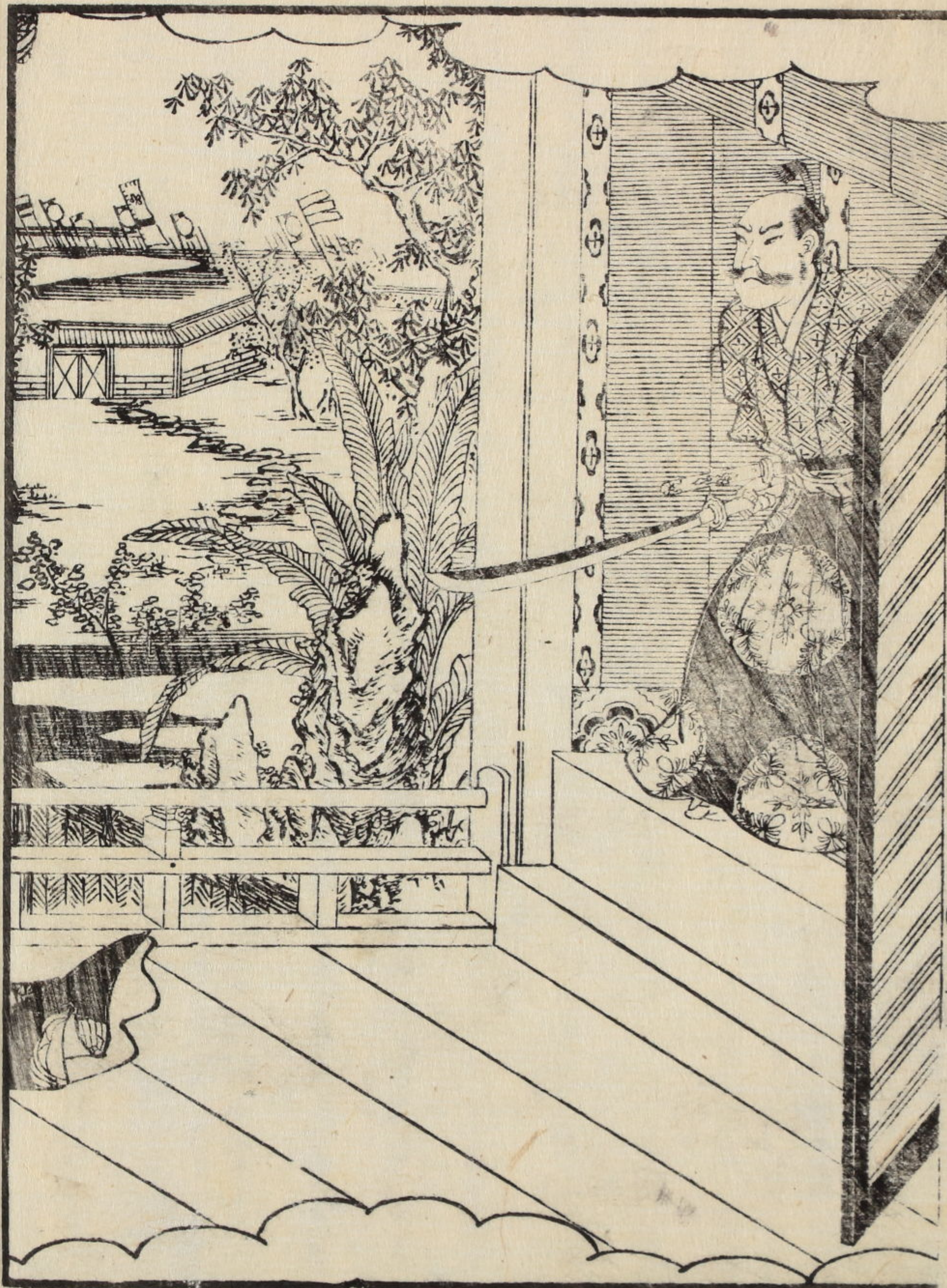
辭を報て歸せし。これか人。所父子。今生の別とこそ。ありに。され。右大臣  
 の極根の咽を咽ふ仇あり。とも。神の知るし。り。さ。び。む。く。不。具。ふ。合。ら  
 せられ。舞や。謡と。命。さ。る。秘。ふ。小。野。の。放。通。伏。見。の。稀。子。阿。能。の。馬。を。ん。ど  
 つ。ふ。最。終。極。雅。の。陪。姑。が。秋。つ。を。梁。の。塵。い。の。る。月。も。蓋。て。や。雲。に。隠。ま。さ。る  
 つ。ば。登。に。放。花。も。色。香。を。閉。く。萎。む。る。絶。く。愛。ま。る。曲。調。に。初。益。ま。る。こと  
 時。久。く。生。涯。りの。酒。宴。に。世。成。飲。に。今。昔。な。る。それ。を。虫。も。や。知。ら。ぬ。ら  
 人。他。も。で。醉。に。耽。む。ひ。丑。の。央。と。お。り。ふ。こ。後。翠。帳。を。寒。け。さ。せ。涼。と。し。く。圍  
 る。後。り。答。答。此。衾。に。卧。く。を。珊瑚。を。軟。く。手。枕。を。若。魚。も。知。く。を。眠。を。せ  
 る。ふ。蘭。丸。を。ん。ど。の。個。へ。亞。廳。子。の。の。ほ。じ。る。が。既。黎。明。子。を。た。ら。る。信。長  
 何。も。や。駭。き。き。人。驚。然。と。して。咽。を。覺。し。枕。を。抛。け。く。聆。り。大。地。に。轟。く。人  
 馬。の。足。を。き。尋。常。の。軍。勢。な。ら。ば。噫。嗟。し。や。と。思。し。る。の。候。准。う。あ。ら。と。言。は。



明智勢  
 本能寺を  
 圍中  
 寺中  
 おろひこ  
 驚動  
 十

豊臣巴五島表二

七

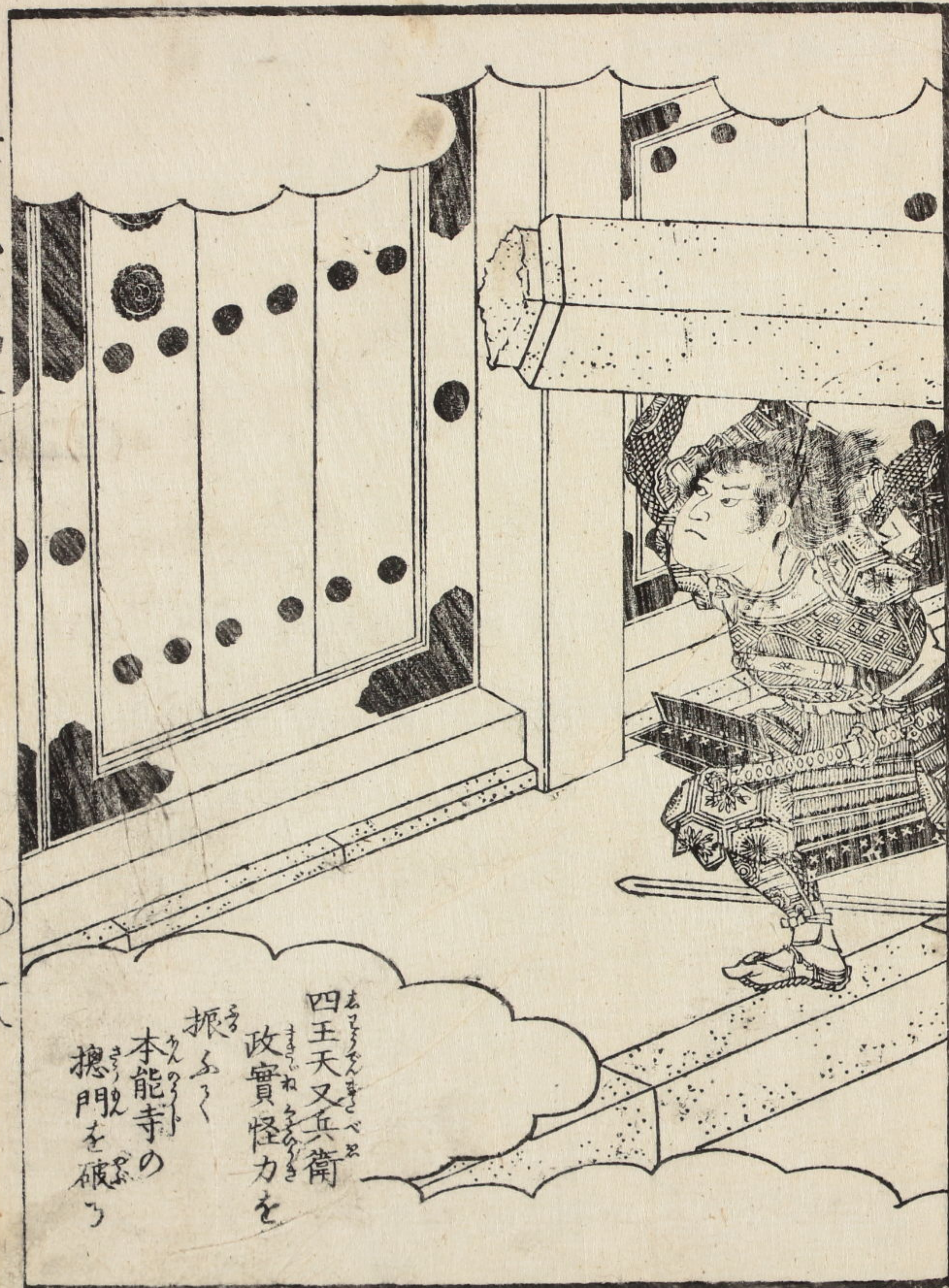


豊臣巴五島表二

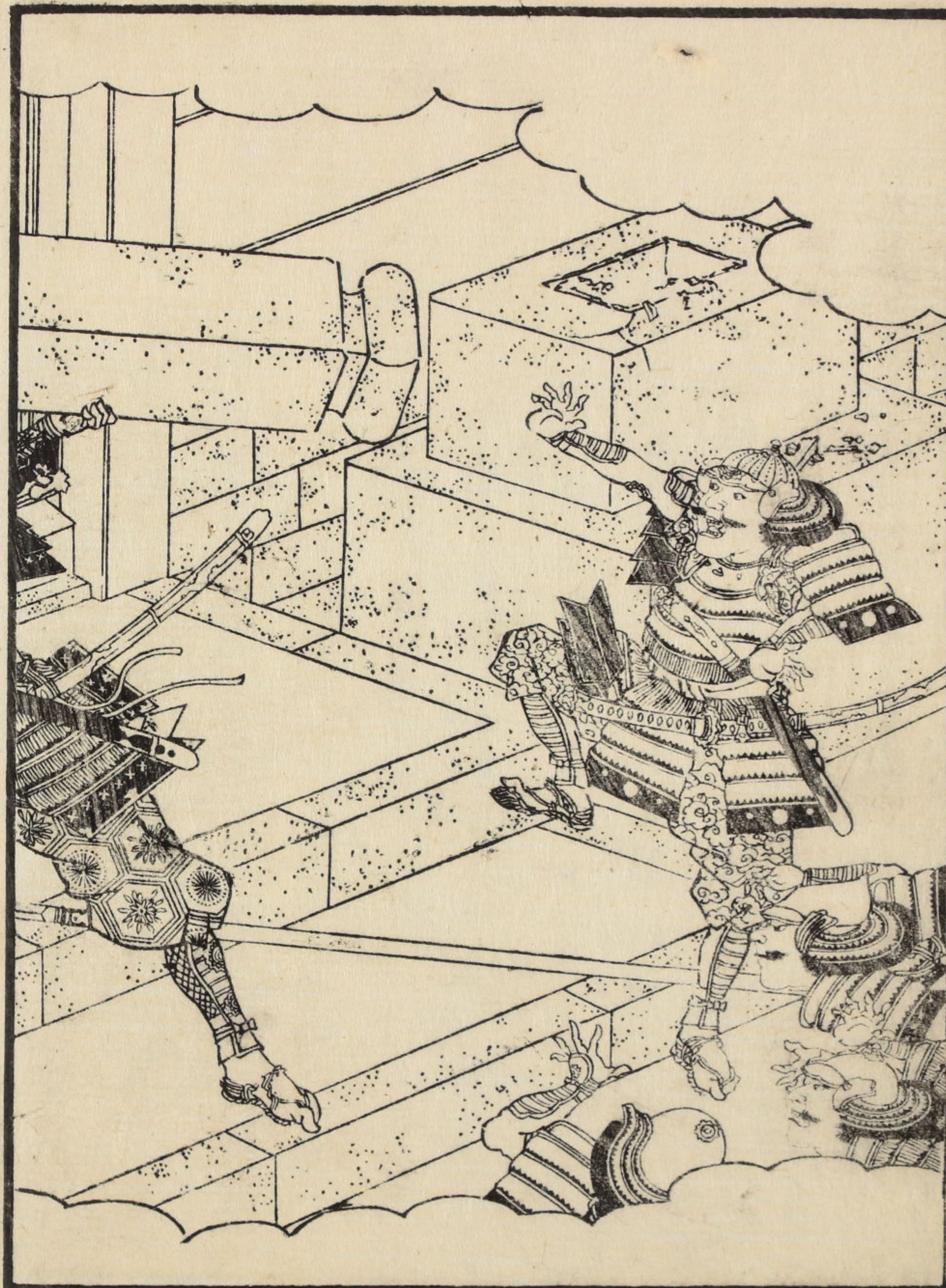
七

聲の下蘭丸宮松愛平。之個これに宿志はくまつりぬと言呈れバ右大將  
 阿所紅く夥の軍勢此地を當て進ると覺也。いづく憚く此緯をくじや  
 早際をくつりくるぞ。孰輩もろく細作せよ。噯一塵も去らばそらに。衆の  
 蘭丸お刀推執。各續けといふ。終ふ柄燭を照して。廊下を抜出中堂なり  
 角の楹れ氣走に届くまを。材のあつたけ舒揚。其方と暗と視彌せ  
 を進来る勢ハ之四千。提燈松明天地のやま。この際百歩此外のふは  
 正魁の旗をみて。中をば遠くをた水色の白く抜た。土は拵候。備を  
 明智が報したま。出腸断しや朽臆や。遠本能寺とを蘭丸が毆死まへ  
 と修羅場なりと。相楹より跳で却り。正門地に奥所敵へ。狂後人となる  
 書院の懸間へ。早人も大將信長公。薙刀提は起出多し。蘭丸敵を徹目と  
 る。報せし。城の孰まあるぞ。唯く所旅館を犯。其報城を預て言状はか

まつり。先秀までゆなれ。み小報城ハ先秀と名日向守に。くありくる。よる  
 浩る寺院の淡間を現徹し。不意を打き。信長が。天魔鬼神も畏れ  
 ざりしが。此寺ふして。明智が。為小現世の。爰れ。覺人との。呼朽臆や。ちりり  
 や。形さ。適る。さ。あ。も。か。一。幕。村。菟。て。胆。到。危。し。小。時。分。り。とも。終。防  
 け。其。ひ。城。取。る。か。壯。士。輩。と。九。天。ま。ま。も。响。彌。る。大。音。声。ふ。く。下。知。り。ひ  
 薙。刀。う。ち。ま。を。個。度。懸。る。弓。推。執。て。待。り。中。に。も。表。蘭。丸。ハ。夜。叉。の。暴  
 たる。如。く。障。紙。画。戸。敲。閉。脚。も。七。板。席。を。鳴。く。直。宿。の。門。を。起。合。い。一。運  
 城。明。智。先。秀。が。所。前。際。隣。く。鼓。を。投。た。る。を。防。け。や。赤。糸。は。と。呼。も。り。く。十。文  
 字。の。鎗。推。拵。て。楯。頼。近。く。遠。出。る。あ。ま。と。全。く。寺。中。の。軍。士。二。百。餘。人。一  
 同。ふ。ま。ま。や。一。世。の。大。事。あり。と。龍。奴。駛。率。に。至。る。を。流。東。恩。殺。を。裁。く  
 身。分。れ。バ。今。ぞ。愈。々。報。む。時。よ。と。兵。器。を。推。把。て。芒。鞋。を。間。を。踏。



四王天又兵衛  
政實怪力を  
振ふく  
本能寺の  
惣門を破る



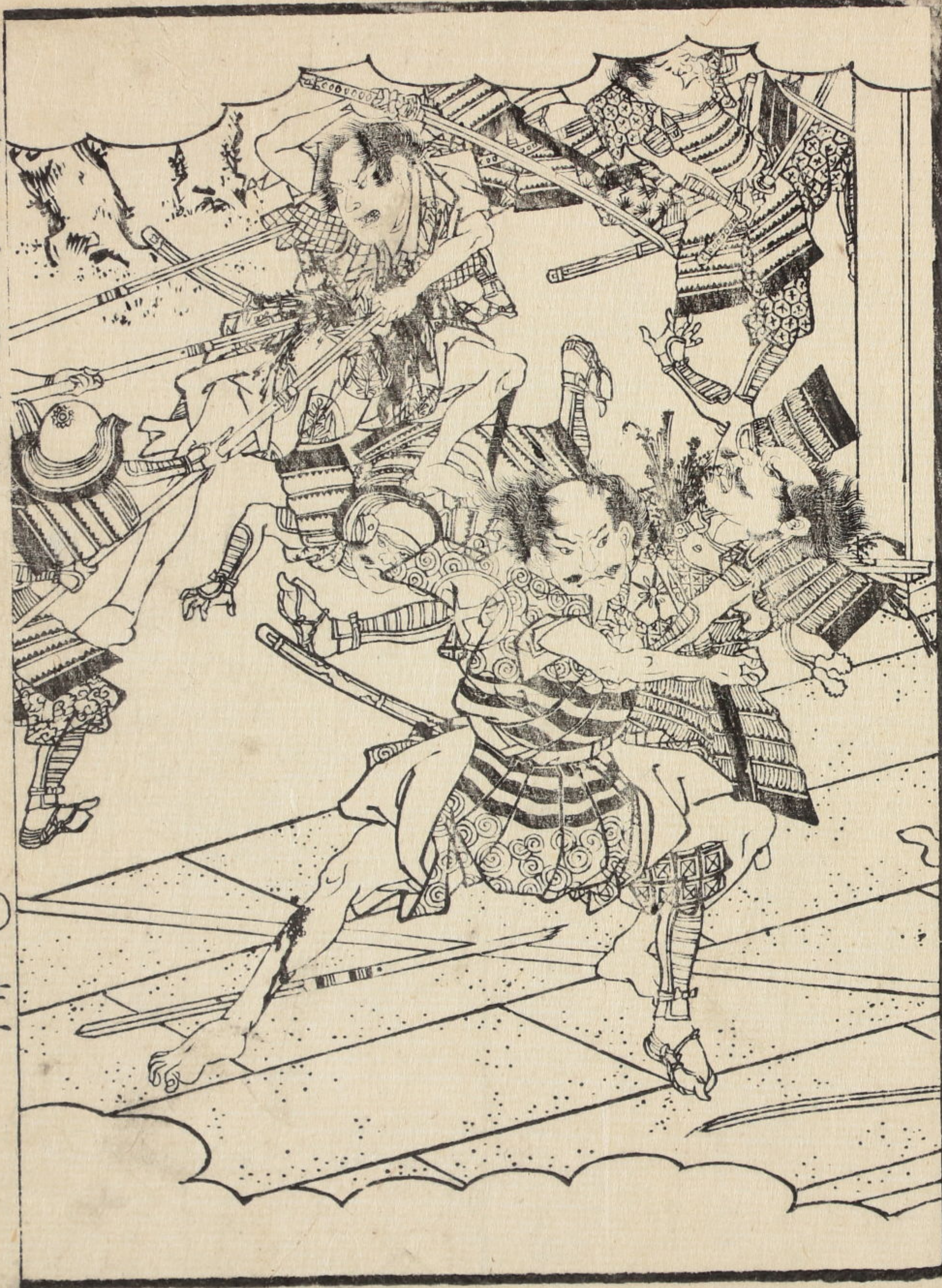
四王天又兵衛

腹くちま操揚赤洗足四面の練礮見越のねれ是代を来て踊より喊を伴  
 ころて清菟一ハ鏡ましくこそ見ええよなれ。遠响明智の諸軍勢。塚橋側  
 近く推進せし。一吐に突と喊を噴。礮小操着。赤投人と。寺中の諸士ハ  
 投させと。鎧羅刀少く破拂ひ。襦袢ひ。令惜まを防。我るは七。進をも  
 左右あく破り。得む。素に遠く見ええ方。不ふ。四馬。但馬。吉々。嫡子。田苗  
 又。名。勝。政。實。享年。積。年。七。十九。歳。なり。と。い。ふ。も。大。力。を。雙。れ。少。年。軍。を  
 ま。も。門。の。傍。ふ。標。立。せ。し。七。尺。許。の。戒。檀。石。を。掌。ふ。強。く。一。七。撃。倒。し。叫。と  
 を。め。り。に。弓。長。期。長。掀。て。門。の。扉。一。擲。着。ま。下。穢。扉。も。あ。ら。う。た。ぬ。る。は  
 搏の像く八面へ。激塵と。か。り。と。飛。ぶ。り。あ。ま。は。浅。看。より。明。智。勢。儘。を  
 斬。た。る。怒。水。の。如。く。喚。叫。で。乱。投。る。肉。丸。頑。く。覺。醒。せ。し。三。百。餘。人。の。兵  
 士。業。精。骨。碎。筋。は。是。ハ。物。久。令。も。惜。ま。を。残。り。り。然。も。も。單。絶。短。傍

のを身ハ能け。是と端。端。が。純。車。に。向。く。意。味。し。て。危。急。あ。る。あ。と。い。ふ。を。入。り。し。  
 然。る。後。敵。ハ。只。頼。子。右。大。将。と。擊。つ。そ。ま。つ。ら。ん。と。違。方。の。虚。堂。那。方。の。陣。門  
 之。防。を。破。り。て。純。め。り。経。ぬ。け。洞。極。を。く。進。味。さ。成。大。將。既。と。驚。く。急。籠  
 の。後。あ。る。白。羽。も。曙。曇。の。傍。と。跟。城。し。床。の。先。末。を。手。近。く。解。去。白。木。割。割。の  
 大。弓。ハ。弱。と。杞。く。極。畢。近。進。敵。を。ま。せ。つ。け。し。と。幕。窓。の。後。より。射。出。し。る。人  
 以。矢。の。ま。ま。と。令。く。曉。中。の。霧。を。破。と。あ。ら。も。情。脆。遠。面。那。背。の。看。を。経。り。大。將  
 あ。ら。ふ。あ。ら。ま。と。六。秋。毫。あ。ら。び。し。て。明。智。の。兵。士。一。度。以。突。と。純。と。新。と。あ。る  
 より。信。長。公。雙。の。眼。を。歳。と。暗。れ。板。城。先。秀。の。つ。く。み。あ。る。至。り。板。を。大。逆  
 即。天。符。お。り。ひ。さ。し。せ。ん。と。天。地。も。裂。る。む。り。の。聲。を。て。罵。り。の。身。高。極。勢。  
 先。虎。も。凍。ん。と。頑。ま。る。と。る。強。龍。も。怖。く。換。る。む。り。の。その。威。勢。も。大。聲。  
 是。々。人。選。と。い。ふ。に。十八。段。浪。歩。し。て。ぞ。敵。を。う。ら。む。遠。隊。の。大。將。明。智。先

後。この不汗を那方より視て遂生自軍の奉止る。信長公と看と  
 てまづも接抱とも。既たてまのりしふ。選ここやある。進めしと。  
 声と浪りふ白腕うち揮。烈然とて指揮す。あぶ。これら馳くや  
 魁隊の勇士。藁地甚九糸。在村治郎右衛門。蓮河金右衛門。曰。天又至  
 信俊。三百餘人。鉾銑とらへて突投と。信長公の彼方に。遂生。海士面。  
 八幡。鶴。操地。切生。星。切生。手。當。任。せ。ふ。前。と。接。へ。向。當。引。當。さ。へ。く。よ。  
 羽。响。す。る。と。く。射。す。不。不。魁。強。の。款。十。務。を。う。り。象。基。外。に。射。強。く。  
 危。矢。一。枝。も。な。り。な。る。備。兵。傳。教。と。出。宿。せ。し。次。代。務。助。村。田。若。者。  
 伴。右。衛。門。同。心。林。清。健。兎。六。彦。市。江。六。新。六。及。八。及。九。糸。約。若。虎。  
 若。危。渡。上。八。藤。蘭。丸。力。丸。房。丸。飯。門。宮。松。小。門。愛。平。金。藏。藏。入。魚。佐。庄。  
 七。狩。野。又。九。糸。今。川。孫。治。海。田。右。衛。門。落。合。小。八。糸。信。長。彦。六。久。久。利。

松山田江右衛門。柏系獨丸。祖父江孫丸。大塚江忠俊。六十餘人。各刀をて  
 疾風と接する。あまは。餘節。間。と。は。く。る。も。あり。面。必。不。背。上。踏。投。く。若。者。  
 一。わ。ら。る。の。時。は。は。死。を。と。り。あ。る。ふ。是。ハ。累。代。重。恩。の。主。君。我。死。の。所。  
 供。を。れ。を。惟。う。若。者。子。統。ま。さ。う。人。也。斬。も。糊。も。殊。も。せ。ば。身。命。せ。り。て  
 塵。埃。の。像。じ。誠。と。重。ん。ぶ。る。輝。耀。石。子。齊。く。群。投。款。を。入。紀。下。と。務。を  
 火。子。多。し。釵。脊。を。削。り。汗。は。混。し。て。流。多。鮮。血。の。白。衫。を。紅。ふ。深。故。怒。声。ふ  
 混。む。る。右。刀。韻。ハ。輝。耀。憲。の。石。上。成。千。把。万。奔。ま。る。が。像。く。激。然。と。て。我。ふ  
 ち。か。ふ。も。次。代。務。助。ハ。明。智。孫。十。糸。に。探。合。大。水。は。な。れ。と。殺。關。也。遠。務。助  
 ハ。英。明。次。代。の。任。人。を。り。し。が。馬。形。の。達。者。を。り。る。の。意。近。來。大。臣。の。唱。ふ  
 意。下。て。遠。遭。の。供。奉。よ。加。え。り。し。れ。ば。舊。代。の。士。ふ。い。何。も。保。も。義。を。勵。し  
 ぶ。する。勇士。の。執。氣。一。足。も。あ。と。一。退。づ。あ。七。肉。盡。骨。の。骸。は。あ。る。ま。を。暴。子



豊臣五郎左衛門

上



本能寺裡  
織田家の  
諸勇士戦死す

矢代庄助  
伴太郎左門  
村田吉吾  
伴正林

豊臣五郎左衛門

あきて若我まるにぞ。俤を承て海門村田若吾倣まうけて矢代刀給り他  
 人に美あり。我死まると及ぶまう。適よくと呼れども耳小も更に聆官  
 まで。端投く源十郎。餘の終せ三天をうり。拂斬ふ吹て落し先や接柱人  
 と巨壁をむらけ。直雄を頼とむさく人て接合極合力争を。遠駒侍を弁右  
 清の葉地甚九郎と我ひたるが。矢代勝助を智扶人と。葉地が斬投太刀  
 絶せ右方の肢却扛續望走り進て源十郎が。頼より肩うけ八九寸やと頼  
 割たり。葉地も續より續て走進伴少肩より腰の下まで。袈裟搦搦様  
 に撃放た。矢代勝助遠圍ふきて源十郎を臂坐し跪外し。太刀取揚て  
 斬る駒子孫十郎もも進に方ら火相殺ふ勝助を臂面強く割着られて  
 腹又方共は頬ごりたり。これが茶後ふ伴正林。曰は天文去清と礼殺し。太  
 刀も刀をうちおれらる。終に殺せり死たり左方に村田若吾も方ららじ

もの。憤激突我とひとつとも。明智の猛兵彼竹の像く百裂子刺る  
 り。其身も輪の如くはりて。立跡み死ごりし。哀きといふもあらう  
 里。又手遠も又信長公に庵渡小倉松本九陽渡甚助中尾源三郎の三  
 人。皆舎は旅宿をじたるが。遠強動を聆より。糧を以て被一題ふ。幸助夫の  
 像く馳入り。若の安危おぼはるるをくれ。寺中へ投らんとして。も。明智が  
 軍勢潮の如く退つ。連つ。接合たるも急進も肉へ合る。河さく。遠駒小  
 大將左馬助光俊白統うらまう。鞍頼も突起騰里。大音聲に指揮せらる  
 く。呀言切を記兵審る。信長公に矢を射さるるを。烈しく進て。又と合  
 せ。遠橋甲は在舎を亡の充滿さとも多寡の知らる。増て。鎧をぬ。家  
 秋武者何量の事をもある。進めく。叫ぶ声。鐵回家の三士小倉湯渡  
 中尾。飯外。面に在て。ら。遠。強。輪。備。こ。若。以。急。か。防。若。一。か。と。賞。え



たり。遠藤の立將ハ明智左馬助を遣ふるに近憑て刺殺するに勇猛と  
 ためけ十倍して。柳橋を顯し龍驤の三人六臂の雙刀お振りの流石目的  
 て破るる。茂左馬助が從軍六十餘人を討つて。前後左右より  
 推投網。鎧毬に揚よと擲起る。東西の勇ともあつて。右天小掛も鎧  
 之の首に放落く。四つ目の毬の像に轉墮。左天小掛は六七騎一度  
 に因り。編出銃の銃尖を鼻に刺落し。突つて入る。兵士十は行勝と  
 そふ次倒と欲と。着て逃る。許さぬ。進るも敵は高依殿様さうい  
 かく。當る小信せて撃つ。小瞬する。隊もあつて。十七八騎を盡し  
 小血波たせ。斬連糸より欲をこれに懺悔。ついで欲を自軍  
 日や。懐北の乳幼さを左馬助は怒り。其浦安田の在合ぬ。右川山  
 本合で快盛奴等を殺止よと頻に指揮する。くわくわく。二王曰夫と呼

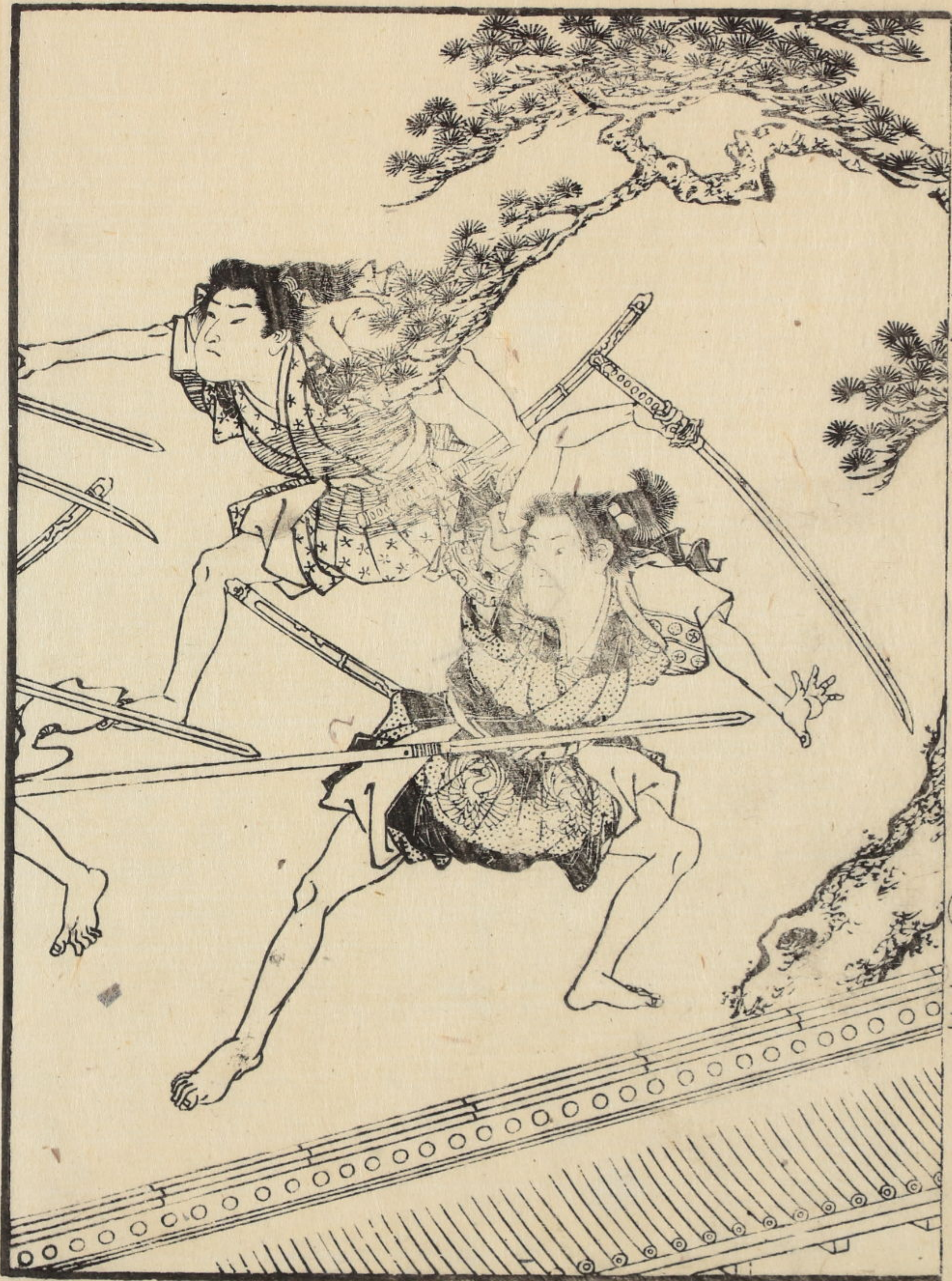
れ。安田作左衛門國次。一番に進出。那方を信と認て。やき湯。湯甚  
 助。中尾源左衛門。小倉松左丸の二勇士。屯集自軍を。稲麻の像に川  
 起。薙起一條の血路を。殺奔して。正一文字。左馬助の旗本。真近。斬殺と  
 り。憎ま。葉奴。像が所行ゆ。先東西看せ。人と安田國次。長威あつ。棟魁の  
 像。く。遊。来りて。中尾源左衛門。突。蒐る。遠方も。得たりと。様合。電。光。石。火  
 の。撲。様。と。あ。して。小。刻。の。挑。闘。ひ。か。我。疲。ま。し。源。左。衛。門。奮。力。撲。つ。て。他。を。湯  
 が。擲。出。す。と。威。を。受。損。ト。千。段。板。より。背。金。まで。只。一。突。小。柳。徹。これ。裏。ま。其。後  
 息。絶。たり。安。田。方。ら。び。其。浦。右。川。山。本。依。殿。水。烈。火。の。勇。を。奮。う。湯。浪。小  
 倉。を。あ。ら。ふ。捕。擲。粉。ふ。か。さん。ど。と。接。し。つ。も。決。死。の。甚。助。松。左。丸。明。智。が。勇。士  
 に。拵。る。と。う。送。織。為。擲。の。氣。徹。穿。天。殊。あり。い。知。る。う。と。擲。出。鎗。杖。擲  
 難。採。立。松。左。丸。右。川。九。左。衛。門。憤。當。ま。れ。バ。甚。助。へ。ま。さ。山。本。三。左。衛。門。は。怒



森乃丸 同房方  
高橋虎若 倭  
大不烈戰  
撃死す

豊臣巴五篇卷之六

十四



豊臣巴五篇卷之七

十三

探して。乞豹飛懸此暴象像。湯殿一盃とる際。烟火を發して我ひしが。  
 湯殿も小倉も脱疲。数ヶ所は深痕を負ふ。此の抄刀も鈍りて自由を  
 得た。その代山本。右門が。多法く。獨投銃の烈勢。うしろへ。其浦大内  
 一喝叫んで。擲激を。銃の鈍れ。銘くて。湯殿が。胸を。横さぬ。費多。外を  
 八九寸。餘り。小倉が。腰。益。相たせ。擲。甚。助。これ。了。了。了。  
 此。む。銃。死。り。れ。れ。も。松。丸。の。獨。法。は。銃。の。鈍。尖。を。弓。手  
 に。擲。背。方。に。破。折。て。其。浦。か。面。上。一。擲。着。目。的。の。外。は。眉。間。小。中。里。  
 鮮。血。眼。を。瞑。す。一。返。返。して。松。丸。其。浦。を。別。人。と。揚。る。太。刀。其。際。は。澤  
 く。背。方。有。る。山。中。右。門。一。突。五。銃。那。際。は。速。く。て。小。倉。が。肩。腰。獨。貫。ぬ。れ  
 て。若。と。い。ふ。聲。の。ま。ち。て。死。り。る。遠。三。勇。士。殺。ま。れ。門。下。子。流。り  
 遮。り。ぬ。れ。咱。他。先。を。争。う。一。度。小。寺。内。に。孔。投。る。遠。响。森。森。一。軍。し

て大匠の所傳小息嘘在たり。追々寺内へ。繁投せりて。十字の槍を  
 鈍長に。掲げ。雷鳴一叫。擲。出。は。眼。子。候。い。ろ。房。丸。力。丸。全。ト。く。槍。を。心。當。ふ  
 擲。一。瞬。を。せ。と。蘭。丸。が。左。右。小。並。人。を。胸。を。被。け。陽。叫。派。て。戦。小。其。蘭。丸。域  
 撃。ま。か。右。大。匠。の。指。揮。小。隨。ひ。金。藏。殺。入。薄。田。與。兵。大。塚。孫。助。同。又  
 市。三。尾。平。助。魚。住。庄。七。小。川。愛。平。落。合。小。八。郎。山。田。孫。右。郎。小。川。孫。次。郎  
 殿。身。解。脱。小。芳。さ。い。い。と。も。方。僅。蘭。丸。に。懸。ま。れ。流。る。鮮。血。を。拭。い。ま。反  
 たる。抄。刀。を。踏。懸。し。揚。り。上。一。跳。却。る。霞。風。の。沙。を。卷。き。縁。く。暮。び。敵。を  
 逐。撲。ま。す。八。明。智。方。は。田。五。天。祖。馬。守。同。又。去。傍。取。木。八。之。近。村。上。和。泉。重。妻  
 木。三。針。獲。二。尾。武。部。進。士。六。市。右。史。を。殺。り。て。殺。年。難。史。子。あ。る。ま。を。懸。し。方  
 ば。改。換。人。と。嗷。叫。んで。接。所。行。ハ。機。の。岩。根。を。う。り。波。の。邊。に。退。く。退。く。退。く。ハ  
 史。こ。う。ち。進。ま。る。ま。り。る。蘭。丸。は。く。死。周。り。て。獨。り。自。方。を。都。投。せ。法

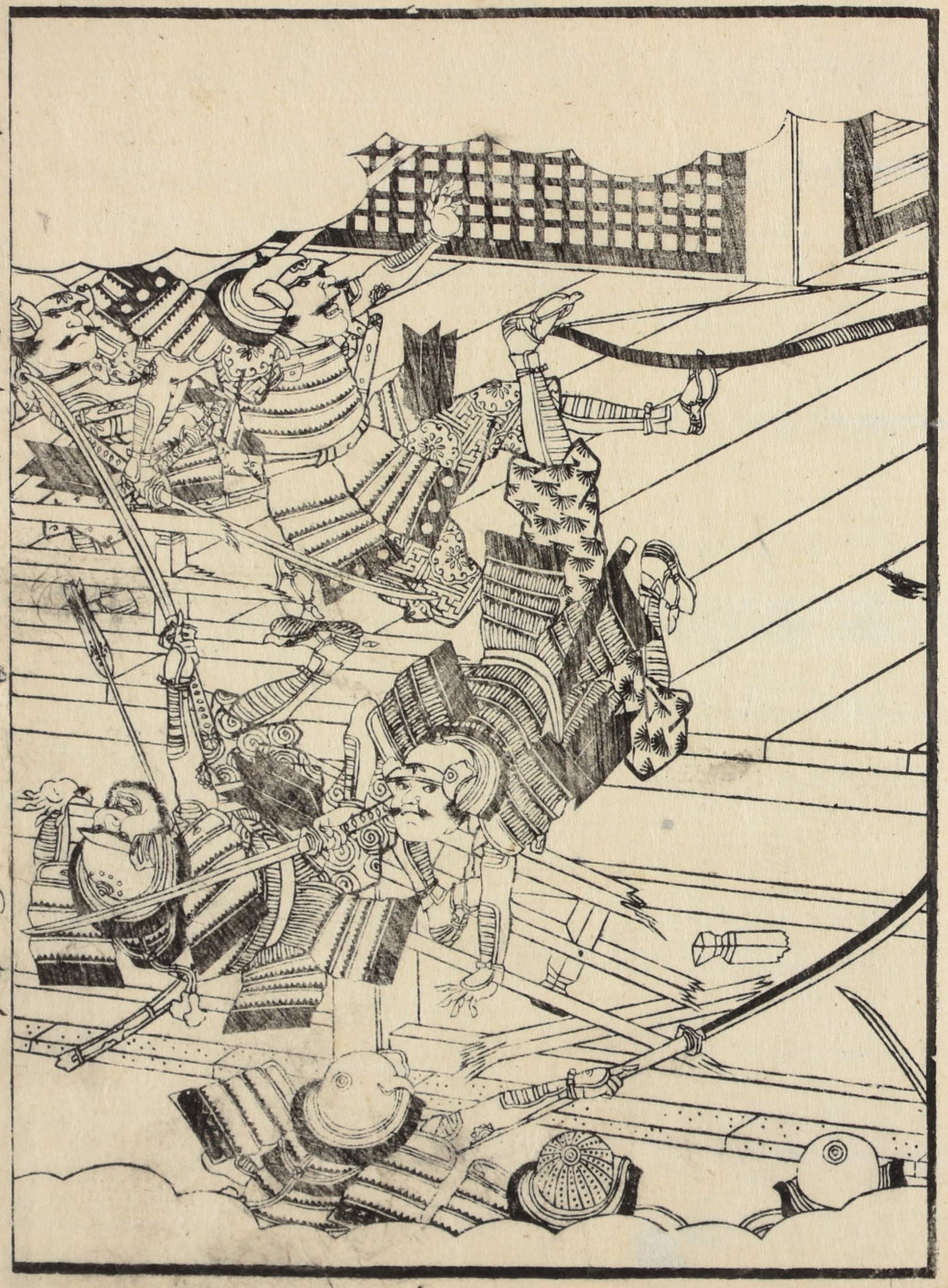
さ自勢を懸けて進退出波さるるに、騎警が急を捜ふ不齊しく、集散  
 離合發よるまや、猿猴が菓を捕ま回しく、勇と弱とのあつてけを賜して  
 只頼大長の沖前を志すも、兎もかんと追つ返すつ我を、曰く天又も清信  
 と視る、原某根の流き、蘭丸息の根止いど、おくをたむと、餘技新て抛擲よ。  
 流投らんこととるこ、ぬか丸をふのさせま、と大石の打振、又も清信、段て鬼  
 ると、呀小助なり。童倫面と、雷の強く一喝叫び、突出鎧の落電より、痛  
 疾うりたる猛勢よ。う將の力丸交争、難て危く、見ゆる、我、房丸兄を毆せ  
 て、よく奮さると、借小葉い、く突、然とも、魂、又も清政、實ま、あ、く  
 激けて、兩個を射、敵は、捨方、一、く、右、突、左、敵、小、隙、間、を、く、勇、を、奮、ふ、く、  
 力丸を、う、ま、一、發、矢、と、擲、置、ひ、を、れ、と、着、る、よ、り、房、丸、の、血、眼、ふ、を、つ、て、憤、突、さ、  
 と、和、本、村、と、受、取、て、終、小、房、丸、を、擊、投、り、那、方、ふ、の、最、前、丸、が、二、個、は、身、ま

のあつり、我死するを侍規して、信長の沖前をさるるも、去らば、速、果、る、歌  
 と、頑、伏、雜、術、要、時、の、玄、若、を、安、ん、ど、ま、る、と、さ、遠、渡、小、城、回、家、の、勇、士、遠、張  
 さ、く、我、死、し、て、存、命、さ、る、の、蘭、丸、を、始、め、十、四、人、の、わ、り、雜、兵、二、十、餘、人、長、次  
 守、護、し、て、在、と、い、ふ、も、渾、身、總、て、血、を、流、し、血、髓、の、嗽、口、で、湯、を、浸、こ、  
 咽、を、潤、さ、不、見、の、顔、に、海、底、ふ、あり、と、い、ふ、阿、修、羅、の、衝、上、小、髻、髻、た、り  
 右、大、臣、沖、生、管、蘭、丸、我、死、馬、安、田、録、切  
 大將、不、ふ、才、十、過、あり、其、ふ、才、と、謂、る、の、の、智、仁、信、勇、忠、是、なり、十、過、こ  
 智、二、小、勇、あり、て、死、を、懼、む、者、二、小、急、あり、て、必、速、なり、三、に、貪、て、利、欲  
 好、む、もの、四、不、仁、あ、ま、し、も、殺、さ、不、忍、び、さ、る、の、の、五、不、智、あり、て、淫、れ、さ、る  
 者、六、小、謀、略、あり、て、意、後、さ、る、の、七、に、利、殺、し、て、自、ら、用、ゆ、る、の、八、不、ハ  
 懶、惰、し、て、他、に、任、ま、る、の、九、不、自、己、が、能、を、恃、で、他、人、を、用、ひ、さ、る、者、十、次

ハ島位小珍て矢射を為む者是なり。その過失ある胸ハ將たる道と金  
るを律めざる。然やと小本林寺に在る。先秀が勇辰吾功成卒して。唯  
こそ大將信長を敵とせしむる人となるか。ふも。本村浩希右衛門。村舟又  
之清侯長公を那方以者て。正一文字に違をく。大長遠駒を不終りて。防  
矢かしておるせし。村舟が正魁に違むと所流じ。噴と聲うけ。強きより。  
放らぬを懸練の巨業怒るより。小又去清が狗へ。荒涼に放矢と。是に  
も堪らば。標頼より。勢逆標に墜し。りりる。ふも。小は。信長公の  
餘と掌返て突蒐る。信長公。横怒小。堪らぬ。大の眼に。森と。脱着無礼ある  
ハ遠去わらんと。清聲烈しく。括る。弓を。膺面撲當と。抵を。脚踏前  
ら七。ふも。倒し。標より。下。倒び。落たり。本村浩希右衛門。丹州。東田。郡。山。本。村  
長。是。は。れ。を。弓。を。お。り。お。り。那。の。如。く。若。長。信。小。身。以。抱。て。若。戦。せ。り。六。曉。か。ぬ  
痕。治。せ。む。し。て。死。せ。し。り。と。

利願より政起て。時と。既。又。己。に。む。れ。と。勝。敗。決。せ。ざ。り。々。れ。ハ。三。條。堀。川。小  
本陣せし。日向守先秀。又。は。信。標。合。戦。形。を。り。に。漸。延。よ。り。て。午。の。刻。と  
す。と。あ。る。備。方。の。援。兵。馳。来。り。て。自。方。難。危。小。及。ぶ。信。小。嚴。し。く。兵。士。を。懸  
せ。り。て。片。付。毛。早。く。信。長。の。誠。を。見。し。た。事。あり。と。福。次。乃。又。希。を。死。せ。て。  
明智光俊。は。僅。僅。左。馬。助。兼。所。目。下。凱。歌。と。揚。べ。れ。バ。河。公。安。く。お。り。す。  
一。と。言。ふ。小。福。次。乃。又。希。信。副。將。の。所。應。言。澄。く。お。り。と。一。鞭。當  
て。馬。と。返。し。先。秀。に。形。と。傳。告。せ。る。不。明。智。光。俊。ハ。声。高。ら。か。小。自。方。を。懸。ま  
し。大。將。日。向。守。の。所。指。揮。あり。後。ふ。も。あ。れ。一。番。に。信。長。公。の。所。敵。を。ま。り。じ  
揚。る。者。以。ふ。今。日。の。功。これ。過。び。褒。賞。も。ま。り。博。大。あ。る。人。と。呼。ぶ。る。成  
聆。安。田。其。浦。古。門。山。本。一。齊。に。俺。們。敵。を。奉。ま。り。さ。ん。河。後。せ。と。言。弁  
て。安。田。作。左。衛。門。正。魁。に。門。内。に。投。て。我。供。自。方。を。横。行。に。強。通。り。信。長。公。の

右大臣の  
猛憤弓矢を  
執、村井木村を  
激殺し、



所首と撃たまくらうんと進退は遠州寺中の合戦の所所方七分の敗死  
 て有保に瀾之法の庭に時あつて敷布紅丹の籠田の秋に落葉あつて地  
 獄の名ある紅蓮子似川氷の斂満たる小室の英畧の最中なれば執氣  
 龍の蒸が偉くち刀風の外の吹をせだ殺氣凜々たるあふ所所方七勇士  
 高橋虎若三尺九寸の太刀お振り厨口より跳り出群る進兵を之に  
 原子拔落流しこ破剛之勇を振つて傑戦を安田地を清虎若が拵初を  
 看るといふも偏な法堂へ擲投て右大臣に捨を注ぐんとおとるべこれ目も  
 武す正一文字に進みゆ備亦山本之太清門の安田其浦と齊一門内入  
 らんとせしむる自方の大勢を隔らるる容易く進み得ざりしを斬て功  
 と他人のよき奪するをいふに成焦燥門より数十歩南の方へ走り  
 悔隙よまたる秋年の肩に注ぐけ秋踏堪しといふまに捨を節は

鳴咳と身と躍らせて高懸へ飄示と逃げ被たる鑑糸斬りた小楼威大  
 袖小袖常後の草摺翻りと離脱を蝶の落花小程ふ偉く鳥の飛雲  
 に違ふ似て生死を争ふ戦場小も叶禁しりといふ貴潰の声の小雲時止  
 ざりたる又も山本の蝶より離却こそも全くと信長公に脱合せんと擲投  
 る面赤る高橋若死懐を羨し程我らるに撲他と脱合通は稱号で斬結  
 ぶ雙進復退虚く實く劈面を撃つと低止し横に獲るを離れざる  
 万化の時轉せしむ割勇なりたる虎若丸も数刻の軍小身も怪累積夥  
 負ぬまは進退をとも自由あつて制や山本之太清の傑氣の勇に擲起  
 らるる遂に懸くべ撃まきたる遠响猶も信長公ハ岡極隙よを立出さひ  
 所脱強く弓精烈しくを横に射るふ安田作を清後より揚太官  
 目的に飛來る儀進歩しと信長公懸地射るふ差鏑を伏去清後よて

撥棄。遠ぞ一躍ふ文と雷神の像く遊来ると大長速くも亞の矢代。  
 強顔烈しく放ち更をその沖威の避ぐるやありやん安田丸の侍帯一  
 大獲るをうり別決と神強氣の作を好まのともせび抜く抛棄猶も  
 進むと三の矢把と信長公使信と引せりふと目えんか天魔も軟く在  
 臣の布衣運せし盡りふもや強敵より裁られば弓矢抛棄六音に後り  
 ある様をそと令せり胸管若八回九角徹の十四五人必死と  
 門く安田丸喰止といへ奉じと我ふを一机懐懐退後門殺す。十字が死  
 の衣被たる二十許の女房が長銃打出發らるる儀。沖愉快氣に響じ  
 傳聞する堀川の静女も類る風情。武家の愛する女房が意嗜こ  
 そ神妙なれ汝候ももや是までなり。快遠場を適是出よ。早くく二室以  
 法。彼長銃を推柱自い。徒若百箭と射むひ。沖疲勞も嘗て見えぬを

進る款を捌伏く。獲子阿修羅王の暴るが如く。觀てそつるも懼ろ  
 くれ。今遠じて大長敵一槍を呈けし女房。世小尻人の給夫とる。阿修羅の  
 局とつ小我婦なり。小雲胸沖傍に跪坐在る。何思ひん身を返して後  
 の廳へ走投より。胸子信長後遠を射る。宗仁とて唱る儀唯くと應て  
 長若川宗に沖箭在るを。歸く儀。信長公沖洞締しく。今信長が最  
 及びて。女衆を体たりと。世との傍を受るも朽爛し。汝も急ぎ女房  
 衆を道守て遠地を快落よ。速刻せよとの被意し。隨ひ。遠限那調に落  
 在る女房達を伴道守て。背門により適出たり。其が中。小阿修羅の局。女  
 性ながら。勇士小勝る大膽ふて。遠期に及びつるも。身を看捨  
 とてまのり。遠地を適走出る。と。俾じく。禪釋放け。後なる聲を  
 白綾をうり。二重をを小髻し。つを腰。小短刀。手に。清水棟の銃。長難



阿能の局  
英戦  
殿  
す



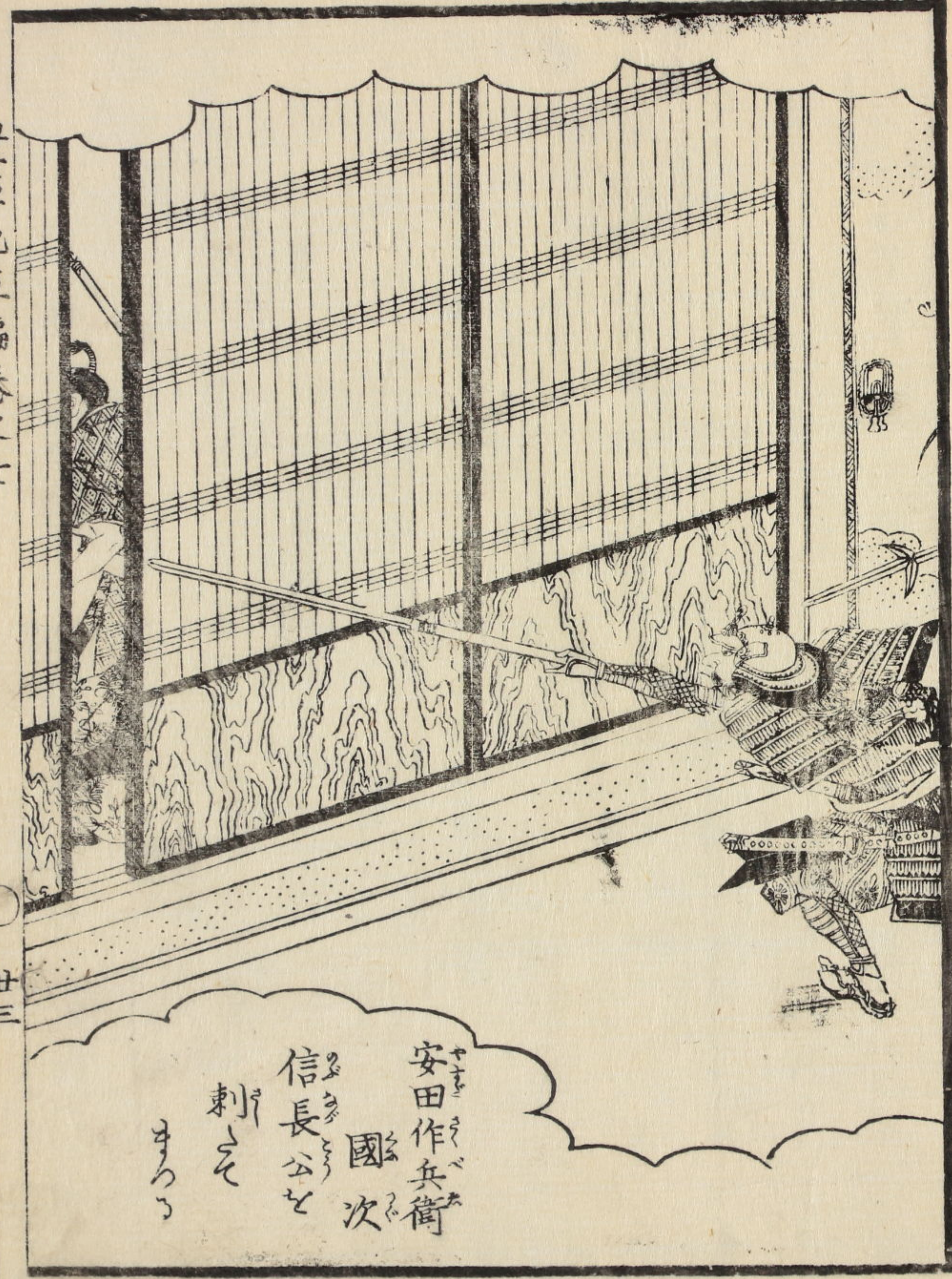
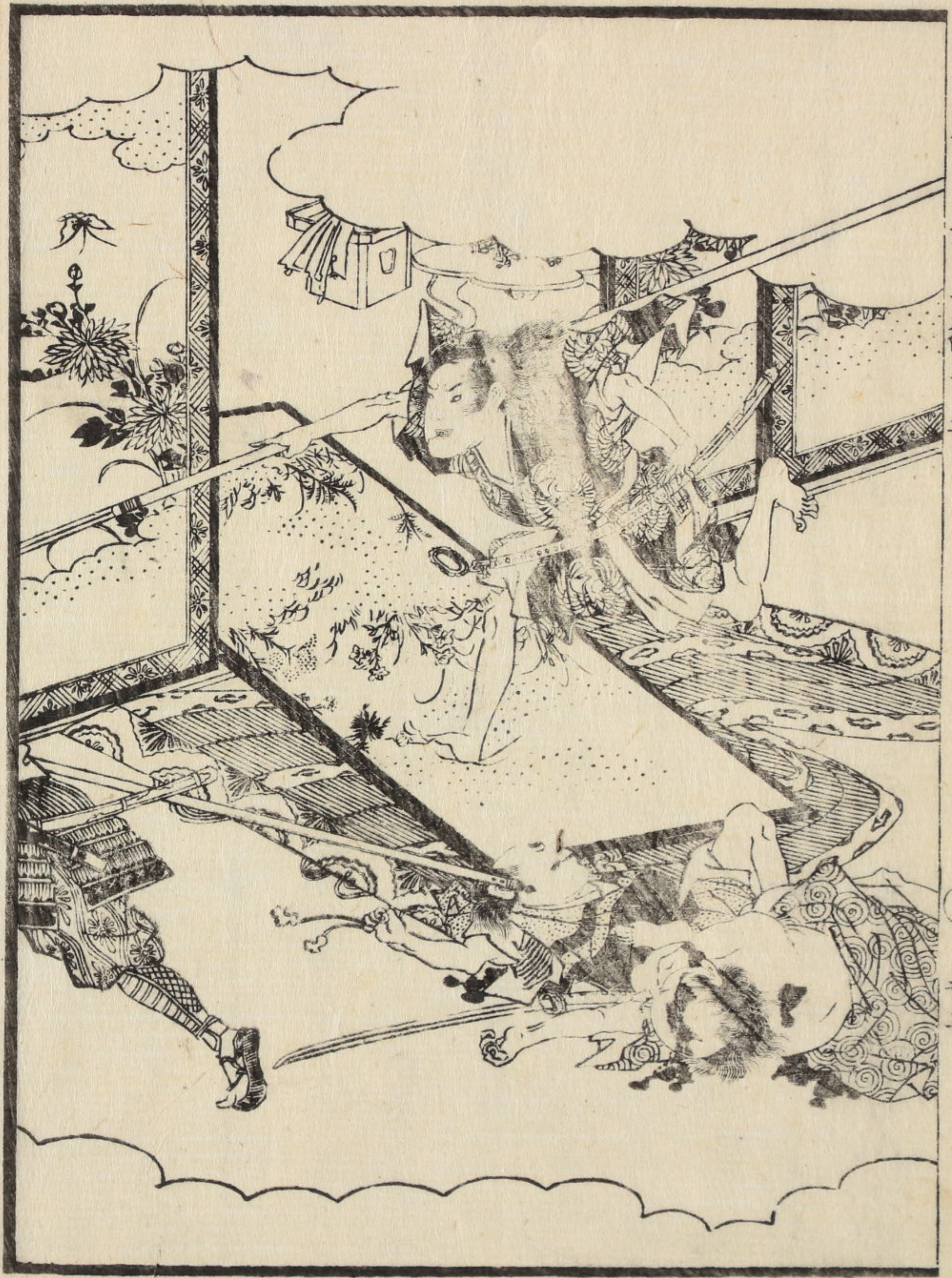
豊后日記五編卷之七



豊后日記五編卷之七

刀正當に挿へ、洞庭より走り出、地も瀝尻を踏蹴り、後横を破り、薙廻る。  
 明智の武士敵の是れ着て、この薙らした女武者、咽喉捉人と、薙廻る。  
 と、敵の紋罷ると、薙りて、破竹、旋風、竜骨車、大波、小濤、激若、濶極。  
 外し、薙落し、薙刀の刃、鋭く、肩、腕、膝、腰、もろろ、當り、けり、と。  
 挿さられ、瞬、瞬、膝、膝、以、十、四、又、膝、を、天、是、地、頭、子、礼、殺、也、その、わ、り、多、勢、に、残。  
 は、け、た、れ、當、の、款、を、あ、ら、う、種、て、門、外、へ、親、と、薙、蒐、る、哉、猶、も、進、で、烈、然、哉。  
 を、落、す、と、こ、ろ、に、山、本、三、九、時、の、秀、盛、信、長、公、を、那、様、不、着、あ、け、嬉、し、や、咽。  
 手に、撃、つ、ま、ぬ、う、せ、ん、と、電、の、如、く、走、り、を、遣、す、と、の、と、阿、能、の、局、匹、夫、面。  
 侍、と、呼、蒐、つ、も、韓、竹、破、り、薙、着、れ、飄、然、と、避、て、落、来、る、迄、頭、を、鎧、お、て。  
 壁、へ、着、入、り、利、脚、拳、を、と、目、え、た、り、し、が、臂、募、地、葉、せ、し、泥、僵、を、泥、阿、能。  
 も、驟、に、尺、短、刀、脱、刺、撃、殺、す、の、當、を、と、勝、人、と、さ、る、素、より、身、死、す、と、な、す、つ。

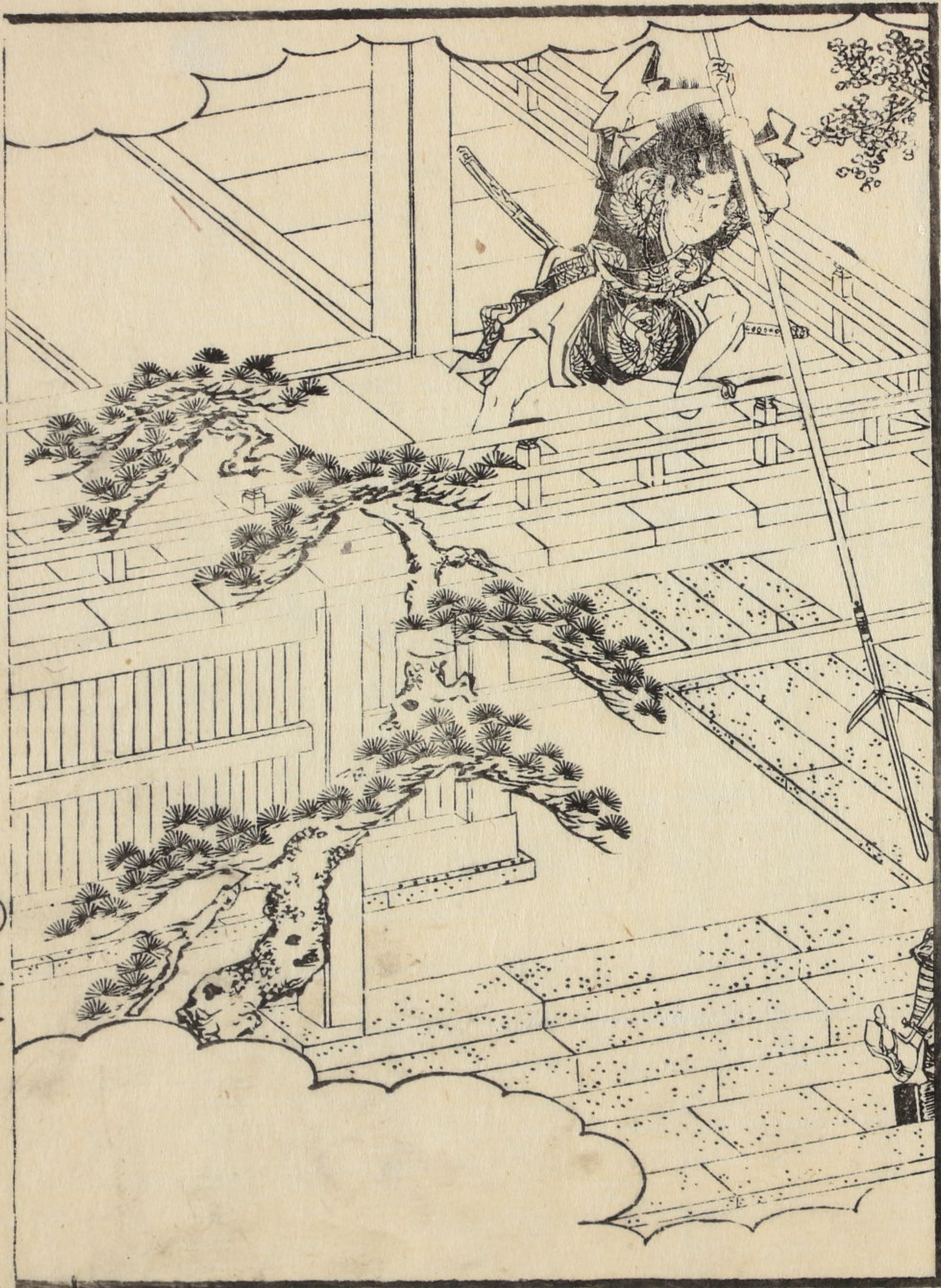
四五尺、高く、跳、揚、れ、阿、能、ハ、勝、人、と、さ、る、腕、子、刺、り、力、の、用、た、る、お、や、空、地、を。  
 勝、つ、腕、子、に、倒、る、と、さ、る、と、山、本、さ、る、さ、ら、鎧、を、逆、子、背、より、尾、尻、へ、偶。  
 殺、と、突、貫、れ、若、と、い、う、聲、を、な、ご、り、あ、く、骨、に、け、り、殞、ら、り、と、る、備、石、大、信、信。  
 長、公、ハ、長、威、と、さ、る、款、を、の、様、より、と、之、濟、登、る、哉、敵、墜、し、突、墜、し、た、お。  
 抛、え、石、子、轟、々、突、声、嗚、び、凍、と、し、眼、光、眼、ま、げ、瞬、と、う、て、面、貌、の、情、色、溢。  
 る、如、く、獅子、王、奮、迅、の、猛、威、を、頭、に、し、猛、火、の、わ、さ、た、の、暴、風、に、卷、ら、り、か、と。  
 着、て、や、れ、雲、の、疾、雨、を、纏、り、烈、しく、切、り、わ、ど、不、揃、わ、ず、洞、極、廻、る。  
 柵、も、激、塵、に、烈、然、と、撃、つ、棘、を、滅、し、是、や、扶、桑、を、る、六、十、餘、箇、の、戦、國、れ、そ。  
 の、天、が、下、小、冠、と、さ、る、君、の、運、傾、る、最、終、の、決、戦、形、也、と、さ、り、凍、死、く、刺。  
 穿、小、強、く、挿、さ、り、あ、り、て、右、の、腕、子、鎧、痕、を、二、箇、不、も、せ、負、せ、り、ひ、袖、も、裳。  
 毛、血、も、浸、り、白、衣、変、り、て、紅、の、斑、染、と、ぞ、着、ら、り、哉、蘭、丸、明、智、が、勇、士、業。



安田作兵衛  
國次  
信長公と  
刺とて  
まのう

其浦吉門山本燵と我ひ在がく大音ふく。千斤の弩へ龍氣のこふ  
 せどとらわ。そのけり所とありさせむ。防ぎの物候ひ。快く所入  
 わる。と。呼より喚より急ぐ。遠向ふ。敵と追控。君今生害く。更  
 わらふ。そ。紙坊ぐる。敵の奴軍。一率才士も。殿上へ。揚中。その味をれやと。  
 二十餘弓。の書院。只。檝の短律する。如く。千を可奔寸隙なく。防  
 我すること。燧火より。猶速く。供さる。他も。耳目を。張せり。長  
 公ハ。蘭丸の。練成。実ふも。と。あ。け。け。所生害と。期せ。る。や。後  
 堂と。當て。選。ふ。を。安田。作。を。清。孫。と。より。書院の。檝の。大。戸の。陰。よ。君。成  
 へ。て。在。る。を。それと。看る。より。蹟を。追。蒐。と。せ。ま。つ。り。呼。鄙。怯。る。所。奉  
 止。や。返。さ。せ。る。大。戸。般。止。る。と。声。う。け。て。電。光。の。像。く。走。侍。ふ。は。安。田。地  
 主。清。國。次。よ。一。鎗。ま。ぬ。せ。い。ら。え。ん。と。叫。ぶ。紙。聆。て。森。蘭。丸。や。を。れ。作。去

清いつらより通りたる。所生害の妨か。を。を。願。懐。を。れ。止。ま。れ。や。川。と。追  
 畢。る。遠。响。大。臣。安。田。が。同。と。聆。弁。小。一。廳。に。け。ら。珍。は。毛。障。紙。を。之。圖  
 身。ハ。一。が。時。刻。八。年。に。を。た。れ。ども。外。戸。の。放。を。残。燈。の。猶。猶。ど。て。あり。る。況  
 信。長。公。の。影。を。し。障。紙。は。浮。鎖。を。成。て。その。所。影。を。目的。と。也。銃。も  
 徹。と。障。紙。隔。小。丈。八。の。銃。を。五。六。尺。般。放。と。突。に。か。み。久。知。く。底。至。し  
 て。陰。銃。動。け。成。た。り。と。障。紙。破。て。狂。投。ら。ん。と。さ。る。肯。願。より。霹。靂。の。墮  
 る。ま。り。小。森。蘭。丸。長。泰。也。着。然。た。る。か。と。大。よ。叫。び。奔。蒐。て。銃。突。を。成。し  
 作。を。清。國。次。是。踏。整。し。公。得。る。と。つ。ふ。兼。小。障。紙。の。内。一。鎗。を。陰。を。紙  
 と。抜。返。し。て。蘭。丸。の。銃。の。銃。尖。を。下。地。剛。止。呀。と。件。は。我。叶。を。合。せ。鎗。結。ぶ。る  
 勇士。と。勇士。他。兵。ハ。明。智。の。隊。中。小。森。氏。を。入。せ。て。安。田。國。次。自。己。ハ。鐵。回。家  
 以。大。勇。を。雙。の。森。蘭。丸。長。泰。を。り。つ。き。成。へ。づ。れ。と。侍。方。の。程。志。を。れ。る



森蘭丸  
長恭  
狂猛を  
護  
安田  
作兵衛  
突倒

激突烈刺。蘭丸當日の赤持ハ梅梅の地小鶴の丸を紅と白と不深散したる  
 移を看し。鈍三尺棟柄ハ二間十文字の鎧推兼たる。京糸積て廿二歳京糸  
 依か井小もあるまどさ。羨人の聞え最叩し。安田作兵衛國次ハ豫て期した  
 る軍場あれバ。鞍具相さ。黒鞆の胴丸。肩の二階を白く綴成せし。大袖小  
 袖を結び看。紅糸の鞆を金たる塊を被振。打刀戒刀。敵刺刀。背負はけり  
 一。小丈八の裁あつ揀て。我之相ハ籠りや。何ん虎子や。あらん。中に就て蘭丸  
 方。位同前。小國次。君を刺する奮恨の骨小激し。七。惘念をわ。忠懐去  
 こ。不。激烈してや。や。安田と活安。ざ。と。大敵も萌る。も。り。に。怒。喝。し。死。を。畏  
 る。さ。る。様。よ。う。得。の。國。次。對。開。う。候。中。大。小。威。恐。を。一。軍。に。懸。練。う。り。地。者  
 の。作。兵。衛。よ。く。蘭。丸。成。芳。ら。して。敵。人。を。と。め。と。尋。り。つ。も。右。へ。流。し。九。一。拵。ハ  
 す。こ。一。進。ま。て。お。わ。い。小。退。さ。漸。次。に。様。頼。ま。せ。跟。進。去。し。て。適。身。ゆ。け。

蘭丸焦燥て勢力に信せ。唯一突にと喝と叫ぶ。安田をうら。得。敵。相。小。大。地  
 一。飄。風。と。遊。人。と。と。遊。過。て。方。右。を。置。果。た。る。燈。通。橋。一。陸。河。か。り。蹟。跡。と。登  
 たり。蘭丸得うりと。欄。檻。よ。復。足。う。ん。が。け。安。田。と。就。ま。る。や。あ。れ。國。次。か。の。是。指  
 家の牙。成。と。う。く。怒。ま。あ。わ。く。毛。大。居。家。を。載。せ。ん。と。さ。る。大。逆。賊。天。將。お。毛  
 ひ。志。門。さ。る。か。と。十。文。字。ハ。鎧。を。推。拵。懸。し。お。が。ま。は。さ。小。骨。肉。も。徹。磨。ふ。あ。れ  
 と。金。剛。力。金。輪。際。の。底。ま。で。も。徹。ま。よ。か。し。と。欄。下。せ。り。重。み。る。草。摺。突。激  
 して。辭。肢。へ。は。り。く。當。り。十。文。字。の。又。の。又。に。く。松。成。殺。風。と。觸。吹。た。ま。骨  
 骨。を。穿。つ。れ。餘。ま。る。鈍。尖。磚。よ。碓。止。と。當。り。く。大。を。放。て。り。尋。常。の。責。を  
 ら。ん。魂。も。消。盡。う。り。小。四。天。が。中。の。安。田。作。兵。衛。を。う。ら。ま。怯。ま。せ。蘭。丸。が。欄。脚  
 たる。鎧。の。横。伏。あ。つ。か。と。捉。へ。く。身。を。揺。ぐ。せ。よ。う。り。引。を。その。ま。く。よ。引。起。こ。れ  
 け。右。刀。を。制。手。復。も。難。し。小。新。拵。ハ。呀。ん。と。共。に。蘭。丸。が。一。雙。の。脚。成

蘭丸傳

箭隊より。一刀三隊不破墜され。悲哀しや。忠憤義烈の英雄もこれあり  
 しかるに持るべき朽る大樹の倒る如く。天相不捷と稱ぶとあり。或曰く天  
 又去清寇侍て。惜や首級擡頭より。 は後安田作を清はさむと傳はるる事不詳なり  
在たりしが秀吉天下にまゝる成りて世成をこれ  
名をそくりて大野源左衛門と改名し九段ありたり 備前大將信長公を。後堂  
とも面不獲物の表せしより自ら首をひて死せしより と容れせむ。四方の関門は火を放ちて。そのあか不投む。河生害成を  
 ましりける。逝年四十九歳にておとろる。嗚呼悲哉。天正十年六月二日  
 世も如何なる悪凶日ぞや。過昔天文の初 信長公は天文三年 甲午に誕ましかる。 より。今天正十  
ねん 年六月まで海内不縦横しむ。武威を公の随ふ富ふ。天下に崩れ  
きりあ せ頌徳め。庶民は塗炭の中に救ひ不裁七道の敵國も。その英名を聴と  
た した。天魔鬼神の縁くに怨畏。証ざるふ半の降る軍多かり。河身は二三  
うま 右大臣に昇進し。大業既ふ成就せむと。遂に先秀がたぬ不裁せられ

つかしあそ朽滅しつともあろうあり。河傍小在合を土庵後倭。河尊  
 骸小奈毗具を蔽掩まわらせ。四方より火攻りて。其傍に座を連杯。肘十  
 文字に受到て。會齋一小火に投り。殉死せしこと哀哭ありたり。遠隔橋  
 も河所方よく毆躑されざる。玄士軍九十餘人。遠場那庭に滞止し。鱗身不  
 ありて若我せし。大書院より河藤不造。大齡くと燃熾り。天衢に伸る許  
 河の舟を割る。主君の河生害せし。と察し。まわらせ。各々敵と遊  
 刺。一個も残らば。我死して。忠義ふ其義を轟せし。嘆息し。賞す。

繪本豊臣勲功記五編卷之七終

